

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200238		
法人名	株式会社オールウェーズ		
事業所名	グループホーム すみれ		
所在地	京都府宇治市神明石塚25-21		
自己評価作成日	令和7年4月30日	評価結果市町村受理日	令和7年6月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様の生活の場、かつ共同生活の場として、皆様が慣れ、それぞれの方の強みを誰かの役に立つ事に活かす事ができる、各入居者様を知りどのような環境や活動を用意出来ればそれが可能かを考え支援している。各入居者様も職員も、皆がお互いに何かを通じて関わり合い「ありがとう」と伝え合える、笑顔になれる。出来るだけ外の空気に触れる事を日課とし、散歩に出る。屋内でも体操や音楽を聞きながら歌い、外出企画など幅広くレクリエーションに参加、無理の無い範囲で一緒に家事活動を行う。また活動性ばかりではなく休養も大切に、メリハリをつけ、それぞれのペースで過ごして頂く。健康状態はもちろん、日常生活動作や認知症状による自立度の変化に応じて柔軟に対応しケアを行えることを目指している。職員には積極的に研修への参加、かつそこでの学びを実践し、共有するよう働きかけている。開設より7年目を迎え新しい入居者様へと顔ぶれは変化したがお元気に楽しく暮らしていただけるよう精一杯取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2691200238-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyosvoCd=2691200238-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上野口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	令和7年5月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は京阪バス停「城南荘前」より徒歩3分の立地で、比較的新しい住宅が立ち並び若い世帯が多く、利用者が散歩する際には、入居者と住民の方があいさつなどふれあいができる環境となっています。隣接する小学校では裏口扉から洗濯物を干しに出れば、小学校の窓から子ども達が手を振ってくれたり、声掛けをしてもらったりしています。今年度も、3事業所合同の秋まつりが開催されました。輪投げ・紙製金魚釣り・ワークショップ(ビーズネックレス)や豚汁とおにぎりを用意し、54名の参加者の内19名が地域の方が参加されました。事業所目標「あいさつで広がる ふれあい」に基づき、利用者と地域とのつながりを大切にされている事業所です。また、電気自動車(1台保有)への蓄電と、事業所への放電(3日分)が可能なV2H(ビーグルトゥーホーム)が設置され、「停電時電力供給対応訓練」も実施され、非常時に備えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議で事業所理念を唱和し共有している。「人の和と輪を大切」「住み慣れた馴染みと環境で自分らしく生き活きと暮らせるように」という事業所理念のもとに地域の方々との交流、馴染みの関係が継続できるよう支援している。今年度も秋祭りを開催し地域な方々と交流する機会を設けた。	法人理念、事業理念はホームページに掲載し、地域に発信している。事業所では年間目標「あいさつで広がる ふれあい」を事業所内に掲示している。年間目標は年度始めの全体会議で職員の意見を聞き、見直しをおこなっている。法人理念や事業理念に基づき、人との信頼関係を築き、一人ひとりの会話が広がるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会し、回覧板等をや消防訓練の告知ポスターをご利用者様と一緒に配って回っている秋祭りもご近所の方々にも参加して頂き交流している	隣接する小学校の運動会やゴミ拾いは利用者も参加している。回覧板を利用者と一緒に隣家に届けたり、事業所でおこなう消防訓練のチラシを近隣に利用者と一緒に配布している。近隣は若い世帯が多く、日々の散歩で子どもたちと挨拶や会話をおこなっている。近隣の方から花や野菜をいただくこともある。地域包括支援センターが主催する、認知症カフェ(レモンカフェ)に事業所の2階を開放し、利用者も参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々と散歩に出かける際、挨拶を交わしたり、ご利用者様の日常の様子を目にもらう機会を作っている。近隣の方々にも秋祭りに参加してもらい交流の機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議への参加は全ご家族様に案内を出している会議録も請求書送付の際に同封しており、ご家族様には事業所としての取り組み状況等を報告している。ご意見等はサービスに向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1回、同法人のグループホームと合同でおこない、半年に1回は同法人のデイサービスとも合同でおこなっている。会議には家族、民生委員、地域包括支援センターの職員、宇治市介護保険課の職員が参加している。スライドショーや写真付の資料で利用実績、活動、行事報告などをおこない、ヒヤリハットや事故防止、人材確保について意見交換をおこなっている。議事録は家族や参加者に配布している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて介護保険課職員の方や民生委員、地域包括の方々にも参加して頂き、事業所としての取り組みや状況をお伝えして意見を頂いている。また介護相談員様の訪問も再開しています。	運営推進会議の議事録を宇治市介護保険課の担当者に持参している。会議はコロナ禍で中止となっていたが、月1回の介護相談員の訪問を再開し、利用者一人ひとりと話をされ、約2時間滞在されている。介護相談員から、お便り「事業所のスタッフの皆さまへ」で情報共有をおこなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修の項目に設定し、事業所全体で正しく理解できるよう取り組んでいる。身体拘束適正委員会より議題を挙げ身体拘束への理解と共に具体的なケアについて振り返り、適切なケアが行われるよう会議内で話し合っている。	運営規程や重要事項説明書に身体拘束に関する事項を明記し、家族に説明をしている。身体拘束適正化のための指針を整備し、職員は年2回の研修を実施し、レポートを提出している。転倒リスクの高い利用者には、センサーマット使用に関して、施設サービス計画書に明記し、家族に同意を得ている。また、身体拘束適正化委員会でセンサーマットの使用について見直しをおこなっている。「心の抑えつけも、立派な拘束」であると、スピーチロックについてのポスターを掲示している。また、職員は2か月に1回不適切ケアチェック表で振り返りをおこなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修の項目に設定し、学ぶ機会を設けている。また、チェック表を使用し振り返る機会を作り職員が気になったことなどを月次会議で話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に一名身寄りがなく後見制度を利用されている方がおられ、後見人様とのやり取りの中で自然と学ぶ機会がある。更に理解を深めるため、全体会議などで制度について話す機会を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはしっかりと時間をかけ納得されるまでご説明させて頂いている。また改訂時には書面と口頭で再度説明している。疑問等が寄せられた際にも納得して同意いただけるまで丁寧に話を伺い対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、気軽に記載できるようにしている。ご家族から何らかのご意見や要望があった際にはノートや職員会議で共有し対応を検討している。面会時には積極的にお話を伺う機会を設けている。	年1回の家族交流会や面会時に積極的に意見を聞いている。事業所の玄関に意見箱を設置して。利用者からの意見は日常の会話から聞き、職員会議で共有している。家族からは、事業所に対して感謝に関する意見がほとんどであり、運営に関する意見は出ていない。家族アンケートの実施や意見の公表はされていない。	家族交流会や面会時に家族からの意見を積極的に聞かれています。アンケートを実施することで対面では言いにくいことを聞く機会となりますので、年1回はアンケートを実施されたいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の月次会議で日常業務について振り返り、職員の意見を基に話し合い、必要に応じて見直している。会議以外の場でも職員の思いを日常的に聞く機会を持つようにしている。	年2回の社長面談や管理者が普段から職員の意見を聞いている。毎月の全体会議の前に、職員にアンケートをおこない、業務改善やレクリエーションなどについて意見を聞いている。職員の意見により、夜勤や早出の就業時間を変更し、働きやすくシフト調整をおこなった事例がある。また、外出の機会を増やしたいとの職員の意見により、商業施設での買い物やフードコートでソフトクリームを食べに出かけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が働きやすいように希望に沿った休み、有休の積極的取得に配慮し勤務シフトを作成。経験・能力や資格を考慮し給与を決定。役職・処遇改善などの手当を含め給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での定期的な研修にも外部講師を招き、より詳しく実践的な講習で職員のスキルアップに努めている。認知症実践者研修などの外部研修への参加も積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員には外部研修への積極的な参加を促している。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時に生活歴や習慣を聞き取りセンター方式シートを用いご家族様からの情報も頂いている。日々のコミュニケーションの中からご本人様の意向や希望、不安などに耳を傾け安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時にセンター方式シートを用いる事で入居者様と共にご家族様の不安やご要望を聞かせて頂くようにしている。また面会などでお会いできる機会があれば積極的にお話を伺いご意向をくみ取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時やアセスメント時にご本人様やご家族様が抱える問題を理解し状況に応じて他のサービスなどの情報提供を行っている。入居後の状態の変化への気づきを記録し課題解決の為、ご家族と相談する機会も持っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備や片付け、掃除などをご本人の強みを把握したうえでそれぞれ職員と共に行って頂き、生活の中で役割をもって過ごしていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から密に連絡を取ることを心掛け信頼関係の構築に努めている。また面会時に現状をお伝えしご家族だから出来る事を一緒に考える事で共に支えあうといった意識を共有できるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている	事前にご連絡いただければ可能な限りいつでも来設してもらえるようにしている。昔の職場の後輩の方は1～2か月に一度面会に来られており関係が途切れ無いよう支援している。外出も希望に応じ対応している。	入居前の面談時に家族や担当ケアマネジャーから、馴染みの場所や人の情報を把握し、フェイスシートに記録している。家族に確認した知人や友人の面会は自由である。元看護師をされていた利用者は、他の利用者のバイタル測定をしたり、居室を訪問して体調確認をおこなっている。書道が得意な利用者が書いた「おにぎり」を事業所に掲示している。洋裁の得意な利用者は、ボタンの縫い付けやズボンのゴムの入れ替えをされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間での相性や性格により、座席配置の工夫をしたり、職員が仲介役となり孤立せずコミュニケーションが摂れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族様とも状況報告等ご連絡いただいている。また寄贈などでホームに対しても支援をいただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度行う会議の場で対象者についての話し合い、ご自身の思い、出来る事や困難な事をピックアップし職員間で検討し情報共有を行っている。ご本人にとってより良い生活が送れるよう、ケアプラン作成を行っている。	入居前のアセスメントのほか、事前に家族にセンター方式シートに記入してもらい、利用者の意向や趣味、生活歴を把握している。月1回、全体会議で利用者の状態や変化を共有している。運営理念である「自分らしく生きる」に基づき、在宅での家事を継続し、掃除、食器洗い、調理の準備、生け花など利用者ができることを支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方などを入居前にご本人やご家族、関係者に伺い情報収集を行っている。日々の関わりの中で知り得た情報を職員間で共有し、ケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との関わりなどから得た情報を各種記録、カンファレンス、申し送りなどを通して情報の精査、職員間の情報共有、ケアの改善に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議のケアカンファレンスで、今入居者様が抱えている課題や、課題の解決に向けたケアの方法など情報共有や見直しの場を設けている。ご家族の面会時などに意見を伺い、多職種の意見を取り入れケアプランを作成している。	アセスメントに基づいた施設サービス計画書は事前に主治医や看護師から照会にて意見をもらうとともに、職員の意見を聞きながら計画作成担当者が作成している。施設サービス計画通りに支援が実施できているか否かは、ケース記録で確認できる。モニタリングは3月ごとに実施し、支援について職員会議で共有している。施設サービス計画は短期目標、長期目標満了時や、状態変化時に見直しをおこなっている。計画書は個人ごとにファイル化し職員と共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の些細な変化など記録に残し、申し送りをを行い情報共有を行っている。月1回の会議で意見交換を行い、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月1回、外部の音楽療法士による音楽療法の時間を設けている。併設するデイサービスのレクリエーションや外出活動に参加したりと、様々なサービスや人との関わりの場を増やし、入居者様の生活の質の向上に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーへの買い物など入居者様との外出の機会を持ち、買い物カートを押す、商品と一緒に選ぶ、袋詰め等を実際にして頂き充実感や気分転換に繋がられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を尊重し、入居前からのかかりつけ医がある場合は受診を継続出来るように支援している。また受診の際は、受診の同行などご家族にも協力を頂いている。	入居前のかかりつけ医を継続される利用者は3名おられる。他科受診では体調情報を託して、家族等との受診を支援している。月2回の協力医往診に合わせ、前日にバイタルサインをFAXし、週1回の訪問看護師とは訪問看護記録を共有している。月2回の訪問歯科診療時には、歯科衛生士より口腔ケア指導を受けたりできるほか、訪問薬剤師にも相談ができる。診察には管理者や主任が同席し、診療情報は個人医療ノートに集約している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問日(週1回)に合わせ入居者様の変化をまとめた申し送り用紙を作成し、情報共有・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった入居者様がおられる際は、ご家族と病院地域連携室との情報交換に努め、退院時カンファレンスや退院後の状態観察などをしっかりと行い、その後の入居者様が適切な医療を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師や医師の対応について明記した指針を作成し、グループホームで可能な看取りについてお伝えして定期的にご家族、ご本人の意向を確認してその内容を職員や主治医が共有している。 また、研修への参加も行っている。	重要事項説明書の中で「重度化対応・終末期ケア対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。今年度の看取りはなかったが、看取り後の振り返りは、全体会議で意見交換をしている。看取り勉強会を実施し、食べたいものの提供の工夫等について訪問看護師と検討をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	週1回の訪問看護師の訪問時や月2回の主治医の往診の際に入居者様の情報共有を密に行い、初期対応が迅速に出来るよう心掛けている。定期的に事業所内での研修を行い、職員の知識の定着を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い、訓練の反省点や今後の課題を会議の場で話し合っている。また地域の方に訓練のお知らせを配布する際は、入居者様と一緒に訪ね挨拶したりと協力体制を築く努力をしている。	年2回の避難訓練の内、一度は消防署立会の夜間想定で、2階デイサービスと合同実施している。利用者も初期消火への参加や避難経路の確認している。消防署から、訓練は夜間を中心におこなうようにと講評を受けている。振り返りも記録に残し検証をしている。倉庫には水・食品・衛生用品・トイレ・燃料・毛布等3日分を備蓄している。指定避難所の小学校とは隣接し、敷地内給水塔には3日分の生活用水の備蓄もある。	町内へは訪問して、訓練実施を利用者と共に通知し、回覧板でも広報されていますが、地域の方の参加はありません。更なる地域との協力体制を得るためにも、地域の方が参加して頂ける様な工夫を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修を行いプライバシーや尊厳について、再確認する場を設けている。	年1回のプライバシー保護研修は、個人情報保護と同時開催で外部講師を迎え実施している。介護職はプライバシーに介入するとの自覚の上に立つ等「プライバシー保護のまとめ」が示され、日常的な接し方のチェックができ意識もできる。居室の入室は必ずノックし、入浴は同性介助の希望に添い、排便介助では入室を無理強いせず自己申告とし、声かけと信頼関係を大切にしている。職員気になる言動はその場で注意をしている。個人情報ファイルは鍵付きキャビネットで保管している。	

京都府 グループホーム すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい言葉がけに配慮し、日々の生活の中でご本人の思いや希望を汲み取れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれのペースを大切にしながら、散歩や体操、壁面制作などの活動の提案を行い希望を伺い、その日の過ごし方を入居者様と一緒に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みにあった服と一緒に選んだり、季節に合わせてご家族に衣替えの協力依頼を行っている。訪問美容に依頼しヘアカットを行い、ご本人の好みに応じてヘアカラーを行う事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食手作りで季節に応じた旬のものを提供している。食べたい物の聞き取りを行い、献立を考えている。簡単な調理や下準備、片付けを出来る限り入居者様と一緒にやっている。	利用者は菜っ葉を切る、もやしのひげ取り・お米研ぎや豚肉炒めなど、また食器洗いや食器・お盆拭き等できる事を一緒に行っている。キザミ食・ゼリー食にも対応し、試験的にムース食を一部取り寄せている。行事では恵方巻きを巻いたり、誕生日にはちらし寿司とケーキで祝い、おやつはりんごコンポートや団子を作り小豆をのせるなど、工夫のある手作りメニューを自分の食器で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、入居者様の状態に合わせて食事量の調整や、食事形態の変更を行っている。必要に応じて食事時のアイテムの見直しや食事介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の歯科往診時に、入居者様の食事状況や口腔内について情報共有を行っている。毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、状況に応じて介助を行っている。		

京都府 グループホーム すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄のパターンを知り声掛けやトイレ誘導を行っている。月1回の会議の場で、その方に合った排泄アイテムの検討を行っている。	介助方針は”できる限りトイレで自然に排泄”とし、排泄リズムを掴み、声かけとトイレ誘導を実施している。布パンツの方もおられ、また以前の施設がポータブルトイレがベッド脇に設置されていたため、今は夜のみ使用の方もおられる。パッドやリハビリパンツの使用について職員間で検討を重ね、パッドが上手く機能せず、リハビリパンツ内にも尿失禁が多かった方が、適切な時間配分の声かけにより、リハビリパンツ内に尿失禁がなくなった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を気軽に出来るようリビングのテーブルにお茶を用意し、毎日ヨーグルトの提供を行っている。また体操や散歩を行い日中の活動性を高め、夜間の睡眠を十分にとれるよう規則正しい生活が送れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回入浴日を設けているが、ご本人が望まない時は入浴日の変更を行ったり、時間を変更したりと状況に応じて柔軟に対応している。	入り口には大きな「ゆ」のれんが架かり、午前2名午後1名で入浴予定表を作成し、週2回の個浴を実施している。体調等での変更もあるが、今は特に入浴拒否は見られない。香りやお湯色の希望も特になく、たまに気分を変えて、さくらの入浴剤などを試みる事もある。冬場は浴室暖房や脱衣所にストーブを置き温度差はない。リフトを設置し機械浴も可能で、浴槽がまたげない方も座浴ができる。その都度の清掃と足拭きマット交換で清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状態に応じて休息の声掛けを行っている。空調や照明に配慮し、安眠に繋がられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の状態に応じて服薬内容や薬の形状等、往診時に主治医に相談・情報共有を行っている。変更があった際は、記録に残し職員間の情報共有に努めている。また些細な変化を見逃さないよう変更後の状態を記録に残し、必要に応じて訪問看護師・薬剤師に相談を行っている。		

京都府 グループホーム すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、食事準備や片付けなど、その方に合った出来る事を活かせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜・紅葉など季節感を感じられるような場所へのドライブや、いちご狩りなどの行事を行っている。入居者様と一緒に買い物へ行ったり、散歩や外気浴で気分転換を行っている。またご家族の支援での外食や外出の機会も設けている。	週に2～3回、町内散歩に歩行器や車椅子で出かけ、時には玄関前のベンチでプランターの花を眺め、水やりや体操し外気浴をしている。八幡のイチゴ狩り・天ヶ瀬ダムや井手町の桜花見、おたべ工場見学などドライブも兼ねた外出を楽しんでいる。食材買い出しで、カートを押し袋に詰め、和菓子屋におやつのみたらし団子を買に行かれた方もある。ひ孫さんの七五三に一泊外出の方には、車椅子や内服薬・リハビリパンツ等を用意して、外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご家族からお預かりしホームで金銭管理を行っており、ご本人が必要とされている物をご本人の意向とご家族への報告を踏まえたうえで購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望があれば、ご家族に確認し電話をおつなぎしている。手紙などはご本人にお渡ししている。携帯電話を持参されている入居者様は、ご自身で電話でのやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	塗り絵・折り紙で季節を感じられるような装飾を行ったり、入居者様を中心に壁面制作を行っている。近隣の方からお花を頂く事があり、リビングに飾っている。空調は入居者様に伺いながら調整し、定期的な換気を行っている。	リビングは明るく、壁面には利用者が色付けした大きなカレンダーと風景画が飾られ、アヤマの折り紙作品が添えられている。数人で塗り絵をしたり、ソファでゆったりとTVを見ている方・新聞を読んでいる方など、食事以外は思い思いの席で過ごされている。テーブルには頂いたお花を利用者が活け、換気がされ、室温も保たれ、毎日の掃除も行き届いている。	

京都府 グループホーム すみれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性に配慮しリビングの配席を行っている。ほっと一息つけるような空間づくりとしてソファを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身の馴染みの家具や寝具を持参して頂いたり、ご家族の写真や制作した作品を飾り、居心地よく過ごせるようにしている。	入り口には、花びら型色紙に記名された表札と、折り紙作品が掛かり、居室にはベッド・カーテン・エアコンが設置されている。ハンガーラック・ミニタンス・椅子やテレビ、また、お仏壇を置いている方もあり、中はすっきりと導線が保たれている。家族や昔の職場仲間の写真などを並べ、衣類をたたみ整理して衣装ケースへ入れる方や、シートモップを掛けて掃除をする方もおられる。小学校のプールが目の前の部屋では、子ども達の声で夏を感じることができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を分かりやすくし、排泄面での自立に繋げている。洗濯・食事準備や片付けなど、その方に合った出来る事を活かせるように支援している。		